

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		てくてく親子教室		公表日		R 8 年 3 月 1 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		年齢に応じて、活動を考慮して取り組んでいます	利用定員は1日10名、1グループ上限が5、6名です。基準を満たしています(遊戯室の基準は1.65㎡/人)が、年長児や小学生には、活動によっては手狭に感じる空間もあるため、パーティションを開く、外での活動を検討するなど工夫していきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		要件となる基準人員は満たしています。	感染症の影響で職員体制が整わず、休園を要した日がありました。直接処遇職員の実感として、職員の休みや個別対応が必要となるとき、人員がない、足りていないと感じる時間がありました。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	△		大人用トイレが狭く、車いすでは使用出来ません。 玄関での靴を脱ぎ履くのに高さが必要であるため、お子さんに合った椅子を用意しています。 多機能トイレがありません。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		一人になる為のスペースを用意しにくいところがあります。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		短時間で一人ずつのお子さんについて、振り返っています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の方と話し合う時間を設けています。今年度は保護者グループに職員が入り、話し合う機会が少なかった点を今後を改善したいと思えます。 保護者グループで話し合う機会が少なくても、その日の様子のフィードバックを通して、お子さんについて理解を深める機会を設けることができている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議以外にも、情報の共有ができています。 「あそび会議」と題して、子ども担当職員で活動内容や必要教材、遊具等の改善点を話し合う機会を設けています。	毎月の開催を目指していますが、職員が休むなどして時間をとれないことが多い状況です。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価は行っていません。 毎年、法人内の本部監査室による、内部監査を受けており、業務改善に繋げています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修を受けたあと、職員会議で伝達研修を行っています。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		行動観察、家庭や所属園からの聴取、必要に応じた発達検査といったアセスメントを行っています。そのうえで、チームで支援会議をし、計画を作成しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者以外に、子ども担当職員が中心となり、グループに参加する職員も交えて検討しています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		打ち合わせや振り返り時に、個別支援計画に基づいた話し合いを行っています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	△		標準化されたツールの使用は現在行っていません。 日々の行動観察や保護者の方の聴取から、お子さんの適応行動の状況について、確認しています。		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当者だけにならないように、グループに参加しているチームで支援会議やグループの振り返りを行い、活動内容について検討しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの状態や理解の仕方、興味や関心から考え、工夫をしています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの様子、ニーズに合わせて計画を作成し、集団活動の中でも、個別対応をするときがあります。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		グループ前に時間を確保できるようにしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		短時間で振り返っています。振り返りに参加できないことがあっても、後で共有できるように努めています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		要点をまとめて記録できるようにしています。	記録や管理について、ヒューマンエラーをなくすため、また、効率向上のために、アプリを使うなどの改善の余地があります。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		保護者の方と話し合い、お子さんの様子に合わせた支援の在り方について、すり合わせをしています。	計画の見直しの時期を見通しを持って把握するための改善に努めます。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者の方の捉え方と、実際の支援で必要なことのすり合わせを大切にしています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		てくてくでの支援が、日常生活に活かされるためにも、各関係機関との情報共有おこなっています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行時の保護者に対する就学のための支援をおこなっています。小学校や特別支援学校(小学部)との引継ぎ・連携は適宜、行います。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		活動内容や様子のフィードバックを丁寧に伝えようという心がけています。	職員体制によっては、保護者グループや面談の機会がとれない状況もあるため、聞き取り不足があると感じています。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		立ち話でも話や相談ができる関係作りを心掛けています。	助言、情報提供には努めています。職員が忙しそうだからと遠慮される保護者の方もおられるので、すべての方が安心して相談できるような体制が必要であると感じています。ご家族や保護者のそれぞれに合わせた関りに注力することが多く、系統立てたペアレント・トレーニングは現在、実施していません。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学時および初回の面談のときに、ご説明しています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		R7年度は保護者会や保護者学習会が実施できませんでした。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付マニュアルを整備しており、上司だけでなく、職員間でも共有することを心がけています。	相談対応については、迅速に対応できなかったと感じている職員もあり、課題が残ります。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		HPは適宜、更新をしています。	Instagramをよりうまく活用できるように努めたいと思います。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		予防接種に関しては、把握していません。	神経発達症にかかわる薬物療法を行われている場合は特にしっかりと把握できるよう、聴取していきます。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			指示書に基づいたものではなく、保護者の方からの聴取により対応しています。保護者にその都度確認させていただき、おやつでは該当アレルギーのものを除去するといった対応をしています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		安全計画に基づく研修や訓練を実施したさいには、保護者の方にもご報告するようにしていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。			現在、該当者はおりませんが、作成した指針にもとづき対応することになります。		